

力走 感動 実りの一日

参加者と一緒に「エイ、エイ、オー」と声を合わせるゲストランナーら。いずれも豊橋市今橋町の豊橋市陸上競技場で



今回から陸連公認大会に

豊橋市で二十四日に開かれた第十回穂の国・豊橋ハーフマラソン(市、愛知陸上競技協会、中日新聞社主催)では、春の暖かな日差しが降り注ぐ中、強い風を受けながらも老若男女の市民ランナーが力走。参加者は地元からの声援を熱源に、それぞれの目標に挑んだ。

穂の国・豊橋ハーフマラソン

開会式でエイエイオー!

○:開会式は豊橋市陸上競技場前に設置された特設ステージ上であり、出場選手の家や関係者らを中心に多くの人が集まった。司会を務めたやしの実FMパーソナリティのチャーリーさんが軽妙な語り口で会場の雰囲気をも盛り上げていた。

穂の国マラソンは、今回から、ハーフでは極めて珍しい日本陸連の公認大会に。豊橋市の佐原光一市長は開会式で「全国一安全で、安心して走れる大会にしたい」とあいさつした。



開会式に参加する大勢の人たち

増田さんら激励



○:ゲストランナーとして、ロサンゼルス五輪の女子マラソン日本代表でスポーツジャーナリストの増田明美さん、写真、プロランニングコーチの金哲彦さん、元女子陸上選手の小林祐梨子さん、豊橋市出身の伊沢菜々花選手(ユニバーサルエンターテインメント)が登場。増田さんは開会式で出場者を前に「楽しく張り切って行きましょう。エイ、エイ、オー!」と激励した。

陸上競技場外のビジョンカーでは、豊橋出身で、東京五輪のマラソン出場を目指す鈴木木由子選手(日本郵政グループ)や前回優勝の服部勇馬選手(トヨタ自動車)らのビデオメッセージが流された。鈴木選手はメッセージで「走る人は自己ベストを、応援する人は楽しんで良い日になってください」と呼び掛けた。

ドイツから友好ランナー



ドイツ・ヴォルフスブルグ市から参加したリーピングさんとニースさん

○:豊橋市が友好協定を結ぶドイツのヴォルフスブルグ市からロニー・リーピングさん(左)とペトラ・ニースさん(右)の男女二人がゲストランナーとして参加した。

印象的だった、ニースさんは「沿道から応援してくれる人たちとハイタッチしたりして元気をもらえた。きれいな景色も良かった」と話した。

タイムはリーピングさんが1時間25分、ニースさんが1時間54分で、それぞれの区分で八十五位、七十五位と健闘した。

レースを終えたリーピングさんは「本当にいい経験になった。豊橋の人たちの笑顔が

へお礼

第十回穂の国・豊橋ハーフマラソン(豊橋市、愛知陸上競技協会、中日新聞社主催)は二十四日、皆さまの温かい声援の中、無事終了しました。開催にあたり、多大な支援、協力を賜りました関係各位ならびに沿道周辺の皆さまに厚くお礼申し上げます。 中日新聞社



市電と並走しながら走るランナーたち＝豊橋市南旭町で

思いを背負い、駆け抜ける

豊橋ハーフマラソン マラソン 増田さんら市民と交流

「第10回穂の国・豊橋ハーフマラソン」(豊橋市など主催)が24日、豊橋市陸上競技場を発着点に開催された。ランナーは澄み渡る青空の下、市内電車(市電)や豊川(とよがわ)沿いなどを通る21・0975キロのコースを駆け抜けた。

(飯塚雪)

今回から日本陸連公認となった同大会は午前10時、号砲と共に、性別や年齢別の8部門4888人が一斉にスタート。今年から、走者が自由にメッセージを書いた着せられる「意気込みゼッケン」を導入しており、10年連続参加している夫婦や、足の手術を経て走っている人ら、ランナーたちはそれぞれの思いをゼッケンに込め、完走、タ

イムなどの目標に挑んだ。トヨタ自動車陸上長距離部の松本賢太さんと藤井啓介さんも招待選手として参加したほか、市のパートナーシティ・ヴォルフスブルグ市(ドイツ)からロニー・リーピングさんとペトラ・ニースさんの男女2人



沿道の声援に応える増田さん＝同市東田町付近で

も疾走。また、おなじみのスポーツジャーナリスト増田明美さんとプロランニングコーチ金哲彦さん、元五輪選手の小林祐梨子さんもランナーと一緒に走り、沿道の声援に笑顔で応えた。

主な結果は次の通り。

【総合】男子 ①國司寛人(名古屋大学) 1時間6分57秒 ②酒井一(SRC) 1時間7分1秒 ③上田泰輔(三菱自動車岡崎) 1時間8分19秒 女子 ①小田恵梨 1時間19分56秒 ②小田切亜希(竹村製作所) 1時間20分22秒 ③西川優衣(東京学芸大学) 1時間22分13秒。

東日新聞

TONICHI NEWS

発行者/東海日日新聞社 <http://www.tonichi.net>
〒440-0874 愛知県豊橋市東松山町90番地 TEL.0532-53-2800 FAX.0532-53-7222 E-mail post@tonichi.net

市民5000人が健脚競う

第10回穂の国・豊橋ハーフマラソン

國司寛人さん初出場初V



約5000人の市民ランナーが市内を駆け抜けた(豊橋市内で)

第10回穂の国・豊橋ハーフマラソンは24日、豊橋公園を発着点に行われ、約5000人の市民ランナーが路面電車や豊川沿い、桜並木など名所を眺めながら市内を駆け抜けた。
(原田直樹) ⑥面と⑪面に関連

今大会では、性別と年齢別で全8部門に分かれ、市内外から集まった老若男女が健脚を競った。ゲストは、ロス五輪に出場した増田明美さん、女子1500m日本記録保持者の小林祐梨子さん、プロコーチの金哲彦さんが参加。昨年に続き、エフエム豊橋でパーソナリティー

を務めるチャリィさんが、実況中継を行いながら沿道の声援に笑顔で応え、一般ランナーと一緒に走りを楽しんだ。前回大会から日本陸連公認コースに認定され、男女とも登録競技者には公認記録証が発行された。今大会は、スローな展開となり、10キロ過ぎからペースアップ。

最後は、激しいデッドヒートを制した國司寛人さん(名古屋大学)が1時間6分57秒で初出場初優勝を手にした。國司さんは「向かい風が強く、アップダウンのある難しいコースだったが、良いリズムで走り切れた。来年も挑戦したい」と話した。各部門の優勝者は次の皆さん。



トラック勝負を制した國司寛人さんが初出場で初優勝を飾った(豊橋市陸上競技場で)

- 【男子】1部(16歳以上29歳以下) 國司寛人(名古屋大学) 2部(30歳以上49歳以下) 上田泰輔(三菱自動車岡崎) 3部(50歳以上59歳以下) 小川博史(愛知) 4部(60歳以上) 山本嘉昭(静岡マスターズ)
- 【女子】5部(16歳以上29歳以下) 小田切亜希(竹村製作所) 6部(30歳以上49歳以下) 小田恵梨(7部(50歳以上59歳以下) 神谷恵理子(碧AC) 8部(60歳以上) 田中洋子